

## 文部科学大臣賞

# 上を向いて歩んでいきたい

鹿児島県 西之表市立安城小学校六年 川畑 真凜

「上を向いて歩こう 涙がこぼれないように 思い出す 春の日 一人ぼっちの夜―」

これは、七夕の日に他界された永六輔さんが、日本の平和を願い、うつぶかかないで空を見上げて幸せになろうという思いで作詞したものだそうです。

私は、同級生がいません。一年生のときからずっと独りぼっちの学年です。だからこの歌の歌詞がずっと胸に入ってきました。みなさんは、一人学年の私をどう思いますか。「一人でさみしそう。かわいそう」と思いますか。もちろん、一人だと困ることとはたくさんあります。授業中は必ず当てられます。隣同士で話し合うこともできないし、席替えだってありません。音読や答え合わせも一人、歌や楽器も間違えるとすぐに気付かれてしまいます。恥ずかしいけれど、そんな時は笑ってごまかします。今年は、最高学年である六年生です。入学式・交流学习など

様々な場面で児童代表として発表しなくてはなりません。「私がやります」と立候補しなくても私がやるしかありません。「あと一人でいいから同級生の子がいればいいなあ」と、正直何度思ったことでしょう。例えば、同級生がいたら勉強中話し合ったりアドバイスしたり、グループでパンフレットをまとめたりできるでしょう。休み時間は、一緒に好きなテレビの話で盛り上がっているかも知れません。

以前、両親が「もし真凜と同級生の子やったら、留学生を受け入れてみようかな」と話しているのを聞いたことがあります。今になって思えば、私に小学校の同窓会もさせてやりたいという思いがあったのかも知れません。

安城小は祖父母も両親も通った伝統ある学校です。この学校でしかできない体験もたくさんあります。なぎなた踊りや漂流びん流し、カシミヤ号漂着の石

碑祭、音楽祭も一年生から毎年参加、今年の運動会は応援団長決定です。また、遠泳大会には私一人の伴泳に先生方や地域の方もふくめて、六人が一緒に泳いでくださいます。恵まれてる面だったたくさんあるんです。だから、私はさみしくありません。かわいそうでもありません。困ることが多いだけです。

先日、担任の先生がこうおっしゃいました。

「真凜さん、先生間違っていた。自分の勝手な物差しで、真凜さんはさみしい、辛いはずだと思ってるでいた。ごめんね。」

五年分の私の素直な思いを先生と本音でたくさん話をしていくうちに、自分のことを分かってくれたんだと、胸がじんと熱くなりました。

私はどこにいても、誰といても置かれた場所で咲きたい。「不自由は多くても、不幸ではない」のです。私はここにいる。ここで自分らしく上を向いて歩んでいきたい。そして、私の自慢の故郷、安城の灯をずっと灯していける自分になりたいです。

